

都市医師会 だより

「奈井江町立国民健康保険病院 併設サ高住」について

空知医師会 理事 小西 裕彦

(奈井江町立国民健康保険病院 院長)

奈井江町立国民健康保険病院では、今年の12月12日にサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）を開所することとなりました。公立病院内での併設は全国的にもユニークな事例で、道医報より紹介の機会をいただきましたので、簡単に経緯を述べさせていただきます。

国保病院の病床稼働率も低迷しており、それに伴い地方交付税も減額され、今後の療養病床の在り方も審議される中での空床の有効利用を模索した過程で、サ高住の併設に舵をきりました。奈井江町の高齢化率も39%に達し高齢者のみの世帯も増えており、医療と介護のサービスを一体的に受けられる施設の充実により、町民の定住や移住者を増やしたい狙いもありました。町の施設は他に老健と特養が各50床ずつあり、サ高住では単身者向け7室と夫婦または1人向け9室の計16室がありますが、現在は満室状態にあります。建物の2階と3階に各々2階に療養型病床50床・3階に一般型病床46床の構造だったのを、3階のワンフロアを「サ高住」に改造し

て16室としたため、必然的に2階が一般病床と療養病床の混合病棟となっている。従って96床が50床に削減したことで、在院日数のやり繰りには苦心させられることにはなりましたが、医療資源の有効利用による安定的・継続的な医療体制の確保・維持には資することができたと考えられます。しかし「サ高住」の料金設定は民間よりも低めに設定されていることから、今後ある程度経常収支の赤字幅を縮小していくためにも外来収益と一般病床の収益もできる限り黒字に収斂させていくためには、さまざまな工夫を凝らしていく必要に迫られます。

サ高住の構想当初は職員の方々には予想される赤字や人員配置での面で納得されない方もいらしたとは思いますが、病院内併設の構想では他の選択肢は限られてしまいますが、利点としては地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設・設備整備事業として地域医療介護総合確保基金事業費として病床機能分化・連携促進基盤整備事業費補助金をいただけることが病床機能の転換のための設備整備費として約半分補助していただけたのが大きかったです。補助金に後押しされて踏み切れたと考えられます。ただこれからは総合的な収益の図れる方法をさらに検証していかなければならず前途は多難に満ちて険しい道程が続くことが予想されます。平成27年度より日本全国では各地の2次医療圏を中心に地域医療構想調整会議が開催され空知でも中空知地域調整会議が9月に開かれ、4病床機能区分と介護・在宅を含む将来の必要ニーズ、さらには病床機能報告制度で明らかになった現状との違い等を認識し中空知圏域のあるべき姿、方向性を中空知地域推進方針、地域医療構想として確立することが重要となる。奈井江町のような地方の中小病院への医師配置は今後益々困難になることが危惧されており、かかりつけ医・在宅・訪問診療にも支障をきたしており要求されるさまざまなニーズに地域医療が追いついていない状況にあるが、今後も砂川周辺の医療機関ともICTを利用した連携を深めて、医療連携ネットワークの構築に参画して住民の要望にできる限り応えてまいりたいと思う次第であります。



居室（Cタイプ）



ラウンジ